

静岡

昨年8月26日、中日本高速道路株式会社が新東名高速道路（以下「新東名」）の御殿場ジャンクション～三ヶ日ジャンクション間162kmを本年初夏に開通すると公表した。162kmは、高速道路の開通延長として史上最長となる。

公表後、川勝静岡県知事は、「開通時期の発表を首を長くして待っていた。県を挙げて歓迎する。」と笑顔を見せ、鈴木修スズキ会長兼社長は「静岡県だけでなく、日本の経済にとって大きなプラスになる。物流面でも大きなインパクトを与える。」と発言するなど、県内は歓迎ムードに包まれた。

東名高速道路（以下「東名」）は、昭和44年5月の全線開通以来、日本の大動脈として産業・文化・経済に非常に大きな貢献を果たしてきた。しかし、この間の日本経済の急激な発展に伴う自動車交通の増大により混雑が著しく、本来の高速性、定時性が低下。さらに近年、由比地区では、台風接近に伴う高波や地震に伴う津波注警報により通行止めが頻発。また、全線開通後約40年が経過し、交通量の増加や車両の大型化等により適切な老朽化対策が急務となっている。新東名はこれらの問題

に対応するとともに、東名と一体となって東京～名古屋を結ぶダブルネットワークを形成し、人・モノの流れを支え、東名との適切な交通機能の分担と高い信頼性を確保し、日本の産業・文化・社会経済活動の振興に寄与すると期待されている。

新東名の特徴の一つとして、快適な走行性が挙げられる。新東名は最小半径3,000m、最大勾配2%となっており、東名に比べ急カーブや急坂が少なく、これまで以上に安全で快適な走行が可能になる。また、個性豊かなSA・PAも特徴の一つ。今回の開通区間に設置されるSA・PAは上下線で計13箇所あり、駿河湾沼津SAは「リゾートマインド」、静岡SAは「ハートフルオアシス」、浜松SAは「音のある風景」などエリアごとにコンセプトを決め、地域に合わせた特色あるエリアづくりを行っている。さらに、すべてのSA・PAにおいて地元の方が一般道路からも利用できるよう、「ぶらっとパーク」が併設されている。

開通に向け、県や地元自治体の動きも活発化している。県は、内陸部を貫通し、交通の利便性に優れ自然環境にも恵まれた新東名沿線を、新しい産業集積、家・庭一体の住まいづくり、エネルギーの地産地消など大きな可能性を秘めた“ふじのくに”のフロンティアであるとともに、伊豆、東部、中部、志太榛原・中東遠、西部につづく第6のエリアとなるものと捉え、IC周辺の工業用地開発、農村地域の活性化などについて調査・検討を進めている。

また、静岡市と浜松市は周辺地域の開発や交流の拡大を目指し、静岡SA、浜松SAへのスマートインターチェンジ（ETC専用のインターチェンジ）の建設を進めている。

新東名の開通を記念するイベント「東富士ハイウェイパーク2011」に約3万人、「ふじのくに新東名マラソン」に全国から約1万人が参加するなど県内外の関心も高まっている。平成3年の整備計画決定から約20年。いよいよ開通が間近に迫った新東名。開通の日を心待ちにするとともに、県内の産業や物流の活性化を期待したい。

神奈川

東日本大震災に伴う「風評被害」で激減した外国客船の横浜寄港が、本年はV字回復する見通しになった。

2年目の同港発着クルーズを昨年春見合わせた「レジェンド・オブ・ザ・シーズ」（約7万トン）は、本年5月と9月に合計5航海のアジアクルーズを予定。このほかの外国客船の寄港計画を含めると、本年の寄港数は過去最高だった2009年の延べ21隻に匹敵するか、それを上回ることが期待される。

外国客船の寄港は毎年春が書き入れ時だが、昨年はバハマ船籍の「レジェンド」をはじめ、英国船籍の「サン・プリンセス」（7万7,000トン）やオランダ船籍の「フォーレンダム」（約6万トン）など延べ10隻以上が横浜寄港を取りやめた。いずれも大震災に伴って発生した原発事故により、放射能汚染が心配されるという「風評」が原因だった。

危機感を抱いた横浜市は、シティーセールスを展開して海外に「安全」を訴えた。併せて横浜港内の放射線量を測定して多言語で定期的に発表し、科学的根拠に基づいて風評被害の払拭に努めてきた。この結果、10月に入ってから「サン・プリンセス」が“復活入港”。米国・ピッツバーグ大の洋上大学客船「エクスプローラー」（約2万4,000トン）も11月に予定通り入港した。

極めつきは「レジェンド」の横浜港発着クルーズの再開決定。本年は、5月に「名古屋・沖縄・台湾」（8泊9日）、「韓国・上海」（同）、「韓国・鹿児島」（6泊7日、2航海）の合計4航海を実施する。また、新たに秋クルーズ（9月）として「釜山・ウラジオストック・北海道」（9泊10日）の船旅も予定している。

「レジェンド」は2010年5月、大型の外国客船としては初めての日本発着クルーズを横浜港を起点に2航海実施。それぞれ上海・韓国への8泊9日の船旅で合計約3,200人の乗客を運び、同年の「クルーズ・オブ・ザ・イヤー」（日本外航客船協会主催）のグランプリも受賞して日本のクルーズ人口の裾野拡大への寄与が期待されていた。



2010年5月、横浜港発着クルーズを実施した時の「レジェンド・オブ・ザ・シーズ」（大棧橋国際客船ターミナル）

「風評被害」払拭か？
外国客船の横浜寄港 V 字回復
本年は過去最高更新へ

再開決定に際して、運航会社ロイヤル・カリビアン・インターナショナル（米国）の日本総代理店ミキ・ツーリストは「アジアクルーズを重視するロイヤル・カリビアン社の経営方針による」とコメント。横浜市は「風評被害が払拭されつつある証左」と歓迎し、同社の決定がほかの外国客船の横浜寄港の弾みになることを願っている。

国内、海外の船籍を問わず、客船は寄港するだけで港が華やかになる。加えて入出港に伴う諸経費支出、給油や給水、各種船用品の調達などで地元にも多大な経済効果（横浜市の試算では1隻あたり約2億1,000万円）をもたらす。このため、横浜港の関連業者も「寄港V字回復」の見通しに胸をなで下ろしている。

「円高の影響は続いているが、風評被害が軽減されるだけでもありがたい」と老舗のシップチャンドラー（船用品納入業者）。また、世界中の船乗りから「赤道を越えても腐らない」とほめられた「横浜の水」も、徐々にではあるが需要が回復しそうだ。

開通が迫る新東名高速道路への期待



新東名高速道路 富士高架橋（中日本高速道路（株）提供）